

公益社団法人 日本青年会議所

2020年度関東地区協議会 国際人育成委員会

委員長 須賀 寛文

現 状 分 析	<p>国際社会で活躍する日本人の育成を図るためには、子供や若者が国際社会の一員であることを自覚し、自分とは異なる文化や歴史に立脚する人々と共生していくことが課題である。しかし日本の若者は、国際社会の一員としての役割を果たしていくために必要な国際的な視野を身に付けていると思う割合は低く、国際的な視野を身に付けるには、外国人と交流する機会や、様々な場での自国、他国の文化や歴史の教育の充実を図ることが必要だと言われている。</p>
目指すべき状態	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自国の歴史について学び、日本人の精神性と誇りを理解している状態。</li> <li>■互いを尊重し合い、違う個性を持つ他人同士が調和する事が出来ている状態。</li> <li>■国際的な視野を持ち、自らが主体的に行動している状態。</li> <li>■世界で活躍の出来る国際的経済感覚を身に付けた人材が育成されている状態。</li> </ul>
連 携 概 要	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ J C I A S P A C アンコール大会ジャパンナイトブース出展への協力</li> </ul> <p>国際意識の向上を図る機会として関東地区LOMメンバー、海外メンバーがASPACジャパンナイトブースを大いに活用し、互いに交流する事が国際の機会の創出になると考えます。ASPACアンコール大会でブース出展を行い、関東地区メンバーも多く参加する事で我々も他国の文化を知り、自国の文化を発信するブース設営を行う事で、海外メンバーにおいては我々日本の他国の文化を知る機会となり、相互に多文化共生の心が育まれると考えます。国際意識の向上を図る機会とし、日本の文化をPRし世界会議の成功へと繋げる事業と致します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ アイデンティティー確立のための事業の実施</li> </ul> <p>ペリリュー島、硫黄島事業において、過去の歴史を知るペリリュー島の方々の話や、未だ残る戦争の跡を現地で見聞し、先人達が築いた絆の歴史を次世代に伝えていく必要があります。現地に赴いてしか学び得られないことを実体験することにより、自国が歩んできた歴史背景を学び、自らの国に自信や誇りを持ち、他国の文化や歴史に関しても理解することができると考えます。本事業では強固なアイデンティティーを確立し継承していくことが出来る人材の育成へと繋げる事業と致します。</p>
S D G s	<p>【10. 16. 17】</p>
政 策 手 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ J C I A S P A C アンコール大会ジャパンナイトブース出展への協力</li> </ul> <p>ASPACに参加するアジアのメンバーとの交流が世界との交流への第一歩になるために、関東地区ブースでは、多くの海外メンバーに立ち寄って頂けるブース設営を行います。ブース内容に関しては、体験型×日本の文化×関東地区の魅力の発信を行います。ASPACに参加される海外LOMメンバーと関東地区157LOMのメンバーがブースを通じて交流することによって、互いを尊重し合い、違う個性を持つ他人同士が調和する事が出来る事業と致します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ アイデンティティー確立のための事業の実施</li> </ul> <p>渡島ミッションにおいては、時代の中で起きた事実を踏まえ、日本の歴史を知るために、実際に現地に赴く。そこで前段階として、有識者を招き勉強会を行うことで事前に知識を得て、参加意欲の向上に繋げる。前段階で知識を得た参加者は、実際に現地で過去の歴史を学び渡島ミッション後に改めて参加者からの発表の場を持つ事で、本事業参加者が先人へ感謝をすることと、日本人としての誇りを持ち、強固なアイデンティティーの確立となります。</p>
パ ー ト ナ ー	<p>内閣府、文部科学省、外務省、防衛省、公益財団法人日本文化興隆財団（事業共催）、各LOM、各LOMの姉妹LOM、カンボジア日本人会</p>